

\*\*\*\*\*

「海の生き物を守る会」メールマガジン No. 65

2010.9.1 (水)

# うみひろも

Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

\*\*\*\*\*

## 「今日の海の生き物 アカニシ *Rapana venosa*

本州以南温帯域や中国沿海の内湾の浅い砂底に棲むやや大型のアクキガイ科に属する巻貝の一種。殻長は15cm以下。拳のような形状で、殻口は広く開く。殻口が橙色から紅色を呈することから、アカニシとよばれている。肉食の貝でアサリなどの二枚貝を食べるが、ア



カニシ自身もなかなか美味。石などにナギナタ状の卵塊を多数産み付け「なぎなたほおずき」として知られる。親貝は産卵後しばらく卵塊を保護している。殻の表面にアワブネという巻貝の一種が生息して

いることが多い(右の個体)。

(東京湾に唯一残る千葉県富津沖のアマモ場にて 向井 宏撮影)

\*\*\*\*\*

目次 「今月の海の生き物」アカニシ

この美しい海を守るために Watermen for Peace 参加報告

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース
2. 海の生き物を守る会の活動報告
3. 海の生き物を守る会の現在の活動と予定
4. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報
5. 事務局便り
6. 編集後記

\*\*\*\*\*



**この美しい海を守るために**

**WATERMEN FOR PEACE**

**7世代先の子どもたちにも、しあわせが届きますように**

8月28日(土)、『WATERMEN FOR PEACE～子どもたちに豊かな海を残そう～』と題するイベントが、原発問題で注目される山口県上関町で開催されました。これは生態系豊かな同海域の自然を未来永劫守って行きたいと、2年前から開催されているもので、向かい側の祝島から建設予定地・長島田ノ浦までの4kmをサーフボードやシーカヤックで横断しようというもの。今回は、10月に開催されるCOP10(世界多様性世界会議)に向け、名古屋まで歩く7Generations Walk(セブンジェネレーションズウォーク)のスタートイベントとしての意味もあり、スタート前の祝島では、さまざまな熱い想いが交差していま

した。山口県内だけでなく、広島や名古屋などからも集まったサーファー4名、カヤッカー11名の計15名が、南東の向かい風に向かい潮の中、伴走船からジャンベの演奏で入魂するミュージシャン（SKATY など）や応援隊に見守られながら、約2時間10分で完走。風光明媚な島々を眺めながら到着したのは、虹のカヤック隊や上関原発を考える山口若衆らが、昨年からはぼ1年、監視小屋に寝泊まりしながら朝から晩まで身体をはって工事を阻止し、守り続けてきたビーチ。誰の心にも「こんな美しい海域に原発ができていいはずはない」と深く刻まれたことはいうまでもありません。



（左）祝島の島民も手を振って応援！（右）サーファーを見守りながら進むカヤッカー。向こうの伴走船には、ジャンベを叩きながら応援し続ける SKATY ら



写真：上関町田ノ浦の海岸。埋立工事が始まって1年。いまだ一坪の海の埋立も許していない。

ところで、COP10を目指して祝島をスタートした7 Generations Walkのその後の日程や、そのコンセプト。同時に動き始めた「海守隊」については、ぜひ下記WEBをご覧ください。

<http://www.7gwalk.org/walkcop10/index.html> <http://plus2008.web.fc2.com/cop10/cop10.html>

（文・写真：田代紀子）

# 1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース

## 【国際】

### ●WWFが報告書 「サンゴの海が危機に」

世界自然保護基金（WWF）は、海水温の上昇によって、東南アジアの「コーラル・トライアングル」（インドネシア、フィリピンなど 6 カ国のサンゴ礁海域）とよばれる地域でサンゴの死滅が続いており、世界有数の高い生物多様性が危機に瀕しているという報告書をまとめた。

1997～98 年に起こった海水温上昇によるサンゴの白化などによって世界の 16% のサンゴ礁が壊滅した。それ以来の大規模なサンゴ礁の消滅が心配されており、サンゴ礁に生息するさまざまな生き物や沿岸の水産資源への影響も懸念されている。マレーシアなど一部の国では観光よりもサンゴ礁の保全を優先し、ダイビング禁止の措置を執るところも出ている。

## 【全国】

### ●生物多様性戦略：海洋保護区推進 環境省案に明記

環境相は今年名古屋で開かれる生物多様性条約（CBD）の締約国会議（COP10）における新しい目標を定めるための行動方針となる「海洋生物多様性保全戦略」の素案を発表した。それによると、これまで遅れてきた日本の海の環境行政を進めるために、「海洋保護区」を導入することを初めてはっきりと宣言した。

これまで国立公園などの指定で、海洋の保護も目指していたが、ほとんど効果はなかった。外国が大規模な海洋保護区の設定を続けている中で、日本は海洋保護区と言えるものはなかった。国立公園や海中公園なども景観を守るための規制はあっても、生物多様性を保全したり、生態系を守るという観点は無かったと指摘されてきた。

今回の「保全戦略」の素案には海洋保護区の定義を「海の持続的な利用を目的に、管理や規制を行う海域」とし、その推進を初めて明記した。ようやく日本の海洋保護が政策として進められることになりそうだが、口先だけに終わらないような実効ある取り組みが期待される。

### ●「未来の子供たちに残したいお魚リスト - FINISH?」 GPJ が発表

環境 NGO「グリーンピース・ジャパン」は、太平洋クロマグロなどを含む 15 種の食用にされているが絶滅が心配されている魚を記述したガイドブック「未来の子供たちに残したいお魚リスト - FINISH」を発表し、東京ビッグサイトで開かれた「ジャパン・インターナショナル・シーフードショー」の会場付近で配布した。グリーンピース・ジャパンは海の生

物多様性と食用の魚介類、そして持続可能な漁業を未来の子供たちに残すことを目指して呼びかけている。

## 【東北】

### ●釜石湾内に新たな養殖場

岩手県釜石市の釜石漁協では、2009年に釜石湾の湾口防波堤が完成したために、その内側に静穏域が生まれたことを利用して、静穏水域に新たな養殖場を設置することを決め、岩手県漁業調整委員会に申請を出した。来年はじめには区画漁業権の免許が出される予定である。漁協の計画では、延縄式の養殖施設をつくり、ホヤやマツモなど魚類以外の養殖を行う予定。漁業者の高齢化に対応した軽作業のできるものを予定している。養殖業も高齢化対策が必要な時代になったようだ。

## 【関東】

### ●谷津干潟で貝が大量死 猛暑も原因か

千葉県習志野市のラムサール登録湿地である谷津干潟で、アサリやヤドカリなどが大量死していた。東邦大学環境生態学研究室の調査で判明したもの。調査結果によると、アサリやマテガイ、ヤドカリ類、外来種の二枚貝などが大量に死んでいた。場所によってはアサリの8割が死んでいるところもあった。原因は水質悪化が主要因だが、今年の猛暑がその傾向を助長している可能性があるという研究者は指摘している。

### ●三番瀬再生会議がラムサール登録促進を全員で合意

千葉県知事の諮問機関である三番瀬再生会議は、三番瀬をラムサール条約に登録するために、以下の点について出席者全員一致で合意をした。合意の内容は、「2012年の締約国会議における登録を目指す。そのために2010年度中に関係者の合意形成を前提とした地元としての明確な意思表示を行う必要がある。2010年度中に、三番瀬全体での登録を目指す努力をすること。全体の登録が困難な場合は船橋地域の登録を目指す」というもの。環境相もルーマニアでの次回締約国会議で三番瀬を含む6ヶ所以上を登録する予定。しかし、「地元」の森田健作知事は、県としてラムサール登録を希望するという明確な姿勢は出していない。

## 【北陸】

### ●珍しいイダテンギンポ 小学生が日本海で初記録

新潟県上越市の小学校2年生山岸峻也君が、直江津港の岸壁で魚釣りをしていて、珍しい種類の魚を釣り上げた。上越市水族博物館の専門家に見てもらったところ、日本海側では初記録になるイダテンギンポと判明した。

## ●サザエ・アワビ密漁は刑事告訴 県漁協が方針

石川県の漁協は、毎年サザエやアワビの稚貝を購入して放流しているが、密漁が跡を絶たず、海の資源を守るために今後は刑事告訴をすることに決めた。これまでは密漁を摘発しても厳重注意をしていただけだったが、密漁が減らないことから告訴に踏み切ることにした。漁業法によると漁協の組合員以外がサザエやアワビなどを採取することを禁じており、違反者には20万円以下の罰金が科される。しかし、漁業法違反で立件するためには、漁協の告訴が必要となるが、今年7月に密漁している者を見つけたが漁協が刑事告訴をしなかったために注意処分だけで放免した。

## ●橋立沖に珍しいカニ ヒラアシクモガニ 捕獲される

石川県加賀市橋立の沖合で、日本海側では珍しい「ヒラアシクモガニ」が3匹、水深約100mの海底からこぎ刺し網で相次いで捕獲された。ヒラアシクモガニは、東京湾以南インド洋にかけて水深180~750mのやや深い海底に生息するクモガニ科のカニで、雄の鉏が巨大になるのが特徴。捕獲されたのは甲幅3~4cmの個体。日本海甲殻類研究会の本尾洋さんによると、過去に2回、1957年と63年に記録があるが、日本海側ではきわめて珍しい。水温の低い日本海の深海でも温暖化の影響が現れているのかもしれないと話している。

### 【近畿】

## ●ウミガメの赤ちゃん 3匹を保護 白良浜で産卵か

和歌山県白浜町の観光地「白良浜」は海水浴客で賑わう人工のビーチ。8月28日の早朝に3匹のアカウミガメの孵化したばかりと思われる赤ちゃんを住民が見つけて保護した。白良浜では今年アカウミガメの上陸は確認されていなかったが、どうやら密かに産卵していたらしい。産卵したのは8年ぶり。どうやら27日の夜孵化したらしく、観光客が27日にも1匹見つけたという。こんな海水浴客の混雑の中で、ウミガメが産卵し孵化したのを見て、観光客は驚いていた。

### 【中四国】

## ●交流10年 「森は海の恋人」が定着

島根県大田市温泉津町で林業家と漁師が交流する「海山交流」事業が行われた。始まって10年目になる。2001年に始まった交流事業は、森の有機物が海の生産を支えるという関係を植樹や間伐作業を通して親交を深めてきた。始まりは島根県森林管理署の職員が漁協に呼びかけて始まったもの。もともとは植林や間伐の人手不足解消の意味もあったようだが、今では「森は海の恋人」のスローガンで交流の意義が定着してきたようだ。

## ●新種「ツノシマクジラ」発見の記念セミナーを開催

山口県下関市豊北町角島の海士ヶ瀬で、1998年9月11日、1頭の鯨が漁船に衝突されて死亡した。そのクジラはその後の研究で新種のクジラとわかり、ツノシマクジラと命名されて2003年に発表された。発見して12年が経過し人々の記憶も薄れてきたこともあり、あらためて新種発見の意義やクジラと人間の関わりについて考えようと今年の9月11日に「つのしま自然館」で記念のセミナーが開かれる。セミナーでは衝突した漁船の船長や、調査を行った中央水産研究所の和田志郎さん、下関市水産課の岸本充弘さんが講演する。

## ●下関であらたな埋め立て計画

山口県下関市垢田沖には、15年前に始まった埋立によって人工島がつくられているが、その人工島の本土側に面した33haを新たに埋め立てる第三期工事計画が国の全額負担で進められようとしている。この埋立は、関門海峡の浚渫土砂を埋立に使うのが目的のようだ。先月には、国交省の人工島事務所が関係漁協の代表者を集めて説明会を開くなど、動き出そうとしている。その席で国が漁協に頼んだことは、環境アセスを行うために協力してもらいたいということであった。漁業者の中では、補償金をもらって漁業をやめたいという人や、人工島建設で海が死んで漁業ができなくなったという人や、これ以上海を埋め立てないで欲しいという人など、さまざまな反応が出ている。漁協の対応が注目される。

## ●香川県で初の浮き防波堤が完成

香川県観音寺市が伊吹漁港真浦地区に整備を進めていた浮き防波堤（沖防波堤）がこのほど完成して記念式典が行われた。この防波堤は浮体工法で作られ、PCハイブリッドとよばれる鋼とコンクリートの合成で、総重量約2500トン。水深17~20mに設置したアンカーブロックにチェーンで係留している。香川県では初めて導入された。

## ●ウミガメの希少種「タイマイ」が出現

愛媛県愛南町沖の鹿島周辺で希少種のウミガメ「タイマイ」が毎日のように姿を見せて観光客の話題になっている。鹿島の船着き場周辺に一ヶ月前頃から姿を見せ始めた。甲羅の長さは約50cmほど。タイマイは熱帯・亜熱帯の海に棲み、べつ甲の原料として昔から各地で乱獲され、現在はワシントン条約で輸出入を規制され、環境省のレッドデータブックで絶滅危惧種に指定されるなどウミガメの中では数がもっとも少なくなっている。

## 【九州】

### ●九十九島の海藻図鑑 CDに

長崎県佐世保市の西海国立公園・九十九島の「させぼパールシー九十九島調査室」が、佐世保市の依頼で九十九島周辺の海域に生育している海藻類約80種を写真や生態をまとめてCD図鑑を作成した。CD図鑑は九十九島水族館「海きらら」内のパソコンでみられる。また、佐世保市内の小中学校にも配布し、子供たちの環境学習に役立てる予定だ。また、九十

九島ビジターセンターで行われている海藻展でも希望者にCDを配布している。CD 図鑑には40年ぶりに九十九島で生育が確認されたホソエガサなどが記録されている。解説では、海藻が生態系内で果たす役割や、海藻を食料や肥料にしてきた人との関わりについても紹介している。

### ●水俣病患者会が現地調査・集会

熊本県水俣市の水俣病不知火患者会などが、水俣病被害を現地で学ぼうと「ミナマタ現地調査」が行われた。また、500人の参加者を得て、「すべての被害者の救済を求める」ための総決起集会が開かれた。登壇した看護師は「同じ海の沿岸に暮らしていれば、被害の恐れも同じようにある。法律の線引きはおかしい」と訴え、熊本訴訟原告団の山口広則・副団長は「全員が確実に救われるよう、今後も交渉を進めていく」と述べた。

また、不知火患者会の関東、近畿支部の会員たちが国や原因企業のチッソに損害賠償を求めた東京、大阪各訴訟の弁護団はこの日、年内の和解成立を目標に、10月中にも和解の基本合意に達したいとの意向を示した。

### ●プランクトンを観察 小学生に海を教える

鹿児島県の鹿児島湾奥地域生活排水対策協議会は、水に親しみながら鹿児島湾奥の水質保全意識を高めるために、小学生を対象にプランクトンの観察会を垂水市で開催した。約30人の児童は、港でくみ上げた海水を持ち帰り、顕微鏡でプランクトンを観察した。

### ●奄美のサンゴ礁「陸地」認定を陳情

鹿児島県奄美市など奄美群島の12市町村は、奄美諸島のサンゴ礁を陸地と認定して市町村の面積に算入できるように国に陳情する方針を固めた。面積をもとに配分されている地方交付税の増額を狙った陳情だが、これまでサンゴ礁が陸地と認められた例はない。陸地の面積は「満潮時の海岸線」を陸と海の境界としており、この規定ではサンゴ礁は陸地に含まれない。しかし、琵琶湖など内陸にある湖沼は陸地扱いされており、サンゴ礁も同様にみて欲しいというのが陳情の理由。総務省では、「サンゴ礁をきちんと面積を測定したデータがなく、現状では難しい」としている。

### ●昨年に続き発見 喜界沖で国内最大級のハマサンゴ

鹿児島県喜界島の西方沖合で昨年に続き約400年前に形成され始めたと考えられている日本最大級のハマサンゴ群落が発見された。地元のダイビングインストラクターの依田純一さんが発見し、東京大学海洋研究所の横山祐典准教授が確認した。横山准教授は今年秋に群落内でボーリング調査をする予定で、400年前からの気象情報が蓄積された資料がとれると期待している。



## 【沖縄】

### ●普通種がすべて新種だった 沖縄のカニ3種

沖縄地方の干潟に生息する普通のカニ類3種が、詳しく調べた結果、すべて新種であることが、琉球大学の成瀬貫特命助教によって発見された。ミナミヒメシオマネキは、これま



新種ミナミヒメシオマネキ



新種ミナミコメツキガニ



これまでコメツキガニと呼ばれていたリュウキュウコメツキガニ（仮称）  
（成瀬 貫氏撮影）

で、フィジー以東に生息するカニと同じ種とされてきたが、DNAを調べ比較した結果、琉球諸島や台湾に生息するものは新種であることを発見した。また、砂浜を黒くするほど群を作るミナミコメツキガニやコメツキガニは、琉球諸島にいる個体は新種で、しかも琉球列島にしかない固有種だと外国の研究から最近明らかになった。成瀬特命助教は、「普通に生息する種が実は新種だったという可能性はまだまだ大きい。今回の発見は氷山の一角だ」と話している。

## 2. 海の生き物を守る会の活動報告

### ●第3回海の生き物の観察会と水族館 平磯・大洗で実施

今年度第3回目の「海の生き物を守る会」観察会を、8月28日（土）に茨城県ひたちなか市

の平磯海岸で実施しました。観察会は茨城県ミュージアムパーク自然博物館のご協力を得て、主任学芸員の池澤広美さんに指導をお願いしました。観察会には、遠く東京、埼玉などからの参加者がありましたが、暑さのさなかということもあり、参加者は11名にとどまりました。観察会に先立ち、池澤さんから茨城県の海岸の生き物や自然、現在直面している問題点についての説明を受けたあと、磯で自由に生き物を観察。子供たちの関心は動く動物（魚とカニなど）に集中していました。見つかったのは、貝類を中心に32種ほどの動植物。さらに海の生き物を説明するために、すぐ近くにある茨城県水産試験場から生きたナマコ、アワビ、マガキ、イガイ、クモヒトデ、テズルモズルなどをお借りして、参加者に見てもらいました。観察会の最後には、近くの砂浜でハマダンゴムシの観察をしました。子供たちが次々にハマダンゴムシを採集し、珍しいハマダンゴムシのかわいい顔をみんなで見賞しました。観察会終了後は、近くのアクア・ワールド（大洗水族館）に移動、夏休み最後の土曜日とあって大賑わいの水族館を稲葉副館長さんに案内してもらい、館内のバックヤードを見学し、飼育の努力やご苦労の様子を間近に見せてもらいました。その後、水族館をしっかりと見学、参加者は大喜びでした。指導いただいた池澤広美さんやアクア・ワールドの稲葉副館長さん、ご協力いただいた茨城県水産試験場の鴨下さん、自然博物館の湯原徹さんにお礼申し上げます。



平磯海岸で海の生き物を観察する参加者たち



暑い日差しの中で海の生き物を観察する参加者たち



採集した海の生き物の解説をする池澤さんと参加者たち

## 3. 海の生き物を守る会 現在の活動と予定

### ●パタゴニア江坂店で「海の生き物を守る会」の活動を紹介

アウトドア用品の専門店「パタゴニア」では、「ボイス・ユア・チョイス」という顧客参加型のイベントで環境保護団体への寄付を行っています。この度、パタゴニア江坂店で、9月30日～10月28日に「海の生き物を守る会」の活動内容を紹介する展示が行われます。展示は二つの環境保護団体の紹介を同時に行っており、同店に来店しこの展示を見た人には投票券が与えられ、展示で紹介している団体のどれかに投票ができることになっています。パタゴニアでは、その投票結果に基づいて、紹介している環境保護団体に寄付を行うことになっています。大阪市内や関西圏にお住まいの方でアウトドア用品を買う予定がある方は、一度パタゴニア江坂店に行き、展示を見ていただくことをお勧めいたします。そして投票の際にはぜひ「海の生き物を守る会」に投票ください。また、11月11日（予定）には、同江坂店で、寄付金の贈呈とともに「海の生き物を守る会」の活動を紹介します。

## 4. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

【全国】

### ●NACS-J 自然観察指導員講習会参加者募集中

NACS-J 自然観察指導員講習会は、地域の生物多様性保全と持続的な地域づくりに取り組むボランティアリーダーの養成講座です。自然の観察を通して、自然の仕組みや人と自然の関わりを学び、観察会などで多くの人に伝えることで地域そして日本の自然を守ります。事前の知識はなくても、気持ちがあれば問題ありません。現在9月から11月にかけて開催いたします講習会の受講者を募集しています。自分たちの暮らす地域、ひいては日本の自然を守るために、皆さまのお申込みをお待ちしております。

■第442回・京都府

開催日 9/18～20

会場 平安会館（京都市上京区）

定員 60人 \*申込多数の場合は抽選

受付期間 一次：8/9～23

二次：8/24～31（一次受付期間で定員に達した場合は募集しません）

参加費（NACS-J 会員） 22,000円

\*他に宿泊費として1泊当たり8,500円と、NACS-J 会員でない方は会費がかかります

■第 443 回・新潟県

開催日 9/24～26

会場 国立妙高青少年自然の家（妙高市大関）

定員 60 人 \*申込多数の場合は抽選

受付期間 8/16～30

参加費（NACS-J 会員） 20,000 円

\*他に期間中の宿泊費と食費が 4,000 円と、NACS-J 会員でない方は会費がかかります

■第 444 回・神奈川県

開催日 10/1～3

会場 神奈川県立かながわ女性センター（藤沢市江ノ島）

定員 60 人 \*申込多数の場合は抽選

受付期間 8/23～9/6

参加費（NACS-J 会員） 18,500 円

\*他に期間中の宿泊費と朝夕食費が 7,000 円、昼食実費と、NACS-J 会員でない方は会費がかかります

■第 445 回・鳥取県

開催日 10/9～11

会場 鳥取砂丘・ホテル砂丘センター（鳥取市福部町）

定員 60 人 \*申込多数の場合は抽選

受付期間 8/30～9/13

参加費（NACS-J 会員） 14,800 円

\*他に昼食費実費、宿泊希望者は期間中の宿泊費・朝夕食費等が 13,650 円と、NACS-J 会員でない方は会費がかかります

■第 446 回・大分県

開催日 11/5～7

会場 九重青少年の家（玖珠郡九重町）

定員 60 人 \*受付期間内(6/1～10/11)で先着順

受付期間 6/1～10/11

参加費（NACS-J 会員） 20,400 円（宿泊費・食費等が含まれます）他に NACS-J 会員でない方は会費がかかります

★受講のお申し込みは以下の専用フォームからできます。

<https://www.nacsj.or.jp/sanka/shidoin/order.php>

<<送付先・問い合わせ先>> 日本自然保護協会 教育普及部 講習会担当

〒104-0033 東京都中央区新川 1-16-10 ミトヨビル 2F

TEL:03-3553-4105 E-mail : 2010@nacsj.or.jp

\*ご希望の方には、講習会の資料や申込書を送付します

\*詳しい内容は、当協会ホームページでもご案内しています  
([http://www.nacsj.or.jp/sanka/shidojin/seminar\\_schedule.php](http://www.nacsj.or.jp/sanka/shidojin/seminar_schedule.php))

## 【関東】

### ●クジラ肉裁判トークバトル！

「ニュースの深層・番外編」クジラ肉裁判 判決前夜トークバトル——仕切りは上杉隆さんです。バトル出場予定者は（敬称略）、上杉隆、佐藤潤一&鈴木徹（被告人）、池田香代子、落合洋司、森達也、鈴木邦男、寺中誠、土井香苗、斎藤貴男、篠田博之、保坂展人ほか続々……。

9月3日午後7時から、東京・新宿のロフトプラスワンにて。会場からの生中継もあります。

お申し込みは→<http://j.mp/biqeVe> 詳細→<http://j.mp/chihey>

“緑豆なう:クジラという地球最大の哺乳動物が、この国では見えなくなってしまう。埋もれている問題を表に出して議論しよう！”  
——上杉隆（ジャーナリスト）

### ●「生物多様性 COP10 にむけて・ポスト2010年目標」シンポジウム ～ユースから生物多様性の未来を考える～

主催：国際青年環境 NGO A SEED JAPAN

共催：がけっぶちの生物多様性キャンペーン実行委員会  
全国青年環境連盟（エコ・リーグ）

現在、生物の絶滅が年間4万種という驚異的なスピードで進んでいます。2050年までにほぼ全てのサンゴ礁がなくなり、さらに2100年までに生物多様性のなんと90%が失われる可能性まで指摘され、クロマグロなど私たちの生活に関わりのある生物の絶滅も危惧されています。生物多様性が失われるということは、私たちの未来が無くなるということでもあります。このように生物多様性と私たちは“がけっぶち”に立たされています。

そして、生物多様性の危機を救うため「生物多様性の損失の速度を著しく減少させる」という「2010年目標」が策定されたものの、その目標は失敗に終わりました。

2010年10月に名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開催されますが、この会議では2010年目標の失敗をうけて、次の目標である「ポスト2010年目標」をどのような目標にするかが焦点になっています。

ポスト2010年目標は、私たちユースと生物多様性の未来を決める大事な目標です。それにもかかわらず、この重要な目標の策定が十分に知られていないのが現状です。次世代を担う、より多くのユースの主体的な参加が今求められています。

本シンポジウムでは、ユースのポスト2010年目標への理解を深め、またこの目標に向けたユースとしての主張を参加者とともに考え、その主張を政府の主張に反映させることを目的とします。次世代を担うユースとして、また「ポスト2010年目標」に関心がありアクションを起こしていきたいすべての皆様のご参加をお待ちしています。

■ ■ 開催概要 ■ ■

【日時】 2010年9月4日(土) 12:30開場、13:00開演、17:00閉演

【場所】 YMCA アジア青少年センター スペースY (B2F)

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-5-5

JR水道橋駅徒歩6分、御茶ノ水駅徒歩9分、地下鉄神保町駅徒歩7分

<http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/>

【参加費】 学生：500円 社会人：1000円 A SEED JAPAN/エコ・リーグ会員：500円  
(事前のお申込みが必要です <http://bit.ly/bJGXAz>)

【プログラム (予定)】

13:00 開会・挨拶

13:10-14:30 【第一部】 基調講演

「生物多様性の問題点とポスト2010年目標について」吉田正人氏(筑波大学大学院准教授)

「ポスト2010年目標の論点について日本政府の提案」奥田青州氏(環境省自然環境局自然環境計画課 生物多様性地球戦略企画室)

14:45-15:45 【第二部】 ユースによる提言

ポスト2010年目標の中でも重要な4つの個別目標(詳細は以下に記載)をメインに、ABS及びミッション内容についてユースとしての主張を提言する。

15:45-16:45 【第三部】 パネルディスカッション

ユースの提言を受けて、日本政府としてどのようなスタンスでCOP10に臨むべきかを議論する。

コーディネーター：道家哲平氏(日本自然保護協会)

17:00 終了予定

【取り上げる個別目標】 私たちがポスト2010年目標において、特に問題意識を持ち政府に提言する項目は、以下に挙げる項目である(予定)。

「ポスト2010年目標」とは：<http://bit.ly/bp3qFp>

目標5：森林を含む生息域の損失速度を減らす

目標6：過剰漁獲が終わる/水産資源が持続的に漁獲される

目標10：気候変動その他の悪影響を最小化する

目標11：保護地域を通じて生物多様性が保全される

これらの項目に関して、政府の主張がより意欲的なものになるように提言する。またミッション内容についても提言する。

■ ■ 申し込み ■ ■

下記の参加申し込みフォームからお申し込みください。

<http://bit.ly/bJGXAz> (クリックすると申込フォームへ移動します)

【連絡先】 国際青年環境 NGO A SEED JAPAN (担当：森下、三本)

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-4-23 TEL：03-5366-7484 FAX：03-3341-6030

E-mail : info@aseed.org

## ●映画「祝（ほうり）の島」上映情報

絶賛上映中！ 東京 ポレポレ東中野 <http://www.mmjp.or.jp/pole2/>

\*1日1回 9月10日まで 19:00

8月28日～9月10日 愛媛 シネマルナティック

[http://movie.geocities.jp/cine\\_luna/](http://movie.geocities.jp/cine_luna/)

8/28(土)～14:35/20:15

※9/4(土)以降、時間変更の可能性あり

9月11日より 神戸アートビレッジセンター <http://kavc.or.jp/>

9/11(土)～17(金)【14(火)休】 12:55

9/18(土)～24(金)【21(火)休】 20:10

※9/12 監督舞台挨拶あり！

あいち国際女性映画祭 2010 <http://aiwff.com/index.php>

9月10日（金）10:00～

※監督挨拶あり！

## 【東海】

### ●あいちのなぎさ この多様な自然を明日に残すために 第23回全国なぎさシンポジウム in 愛知

愛知県は、太平洋に面する遠州灘、内湾である三河湾及び伊勢湾の3沿岸からなり、海岸延長は595kmに及んでいます。いずれの沿岸も優れた自然景観を持ち、古くから生活、通商、漁業、観光の場として重要な役割を果たしています。特に遠州灘沿岸につきましては表浜海岸と呼ばれ、全長約50キロの弓状の砂浜と海岸崖や丘陵地から形成された海岸が美しい日本の原風景を残しています。一方、社会的・人為的問題により海岸環境の悪化が加速度を増し、国民の財産でもある貴重な海岸が存亡の危機に追い込まれていることも確かです。このため、なぎさを通じて海岸の保全・再生に向けた講演や活動報告等による啓発をこのシンポジウムによって本県から全国に発信し、海岸環境の保全問題について意見交換を行います。

開催日時：平成22年9月9日（木）13:00～17:20（12:30開場）

開催場所：豊橋市公会堂（愛知県豊橋市八町通二丁目2番地）※駐車場に限りがありますので、公共交通機関などを利用してください。（豊橋駅前からの市電が便利です）

主催：全国なぎさシンポジウム in 愛知実行委員会

定員：600名

参加費：無料

申し込み：不要

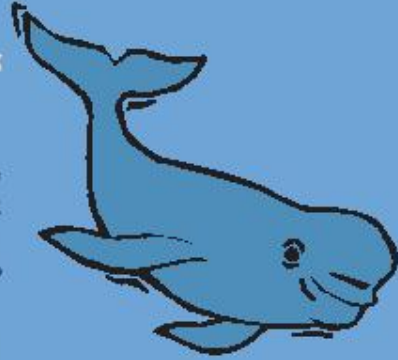


●「上関 瀬戸内海の豊かさが残る最後の楽園」  
三学会合同シンポジウム IN 名古屋

瀬戸内海の生物多様性保全のための第5回三学会合同シンポジウム

**上関** かみのせき  
瀬戸内海の豊かさが  
残る最後の場所

豊かな生物相と高い生産力に恵まれた瀬戸内海。その豊かさがほとんどの場  
所で失われた今も、上関のまわりには、驚くほど多様な生物が残っています。こ  
こでの原子力発電所建設計画について、生物学研究者の三学会(日本生態  
学会、日本鳥学会、日本ベントス学会)は、もっと慎重な環境アセスメントを求め  
る要望書を提出しました。その内容を一般に紹介します。



日時 **2010年9月23日(祝) 13:30~16:30**

会場 **南山大学名古屋キャンパスB棟1階B11教室**  
名古屋市中昭和区山里町18

地下鉄名城線「八事日赤」駅より「正門」経由、  
または「名古屋大学」駅1番出口より「山手通門」経由、徒歩10分。  
周辺は全面駐車禁止となっておりますので、自家用車での参加はご遠慮下さい。

●プログラム(13:00会場/13:30開会)

- はじめに 「学会からの要望書提出の経緯」  
佐藤正典(鹿児島大学)
- 講演 1 「周防灘に残されている瀬戸内海の内原風景」  
加藤真(京都大学)
- 講演 2 「上関に生息する希少な鳥類について」  
飯田知彦(九州大学大学院・日本生態学会)
- 学会からの要望書の説明  
安浜遊地(日本生態学会上関問題要望書アフターケア委員会委員長)  
佐藤重徳(日本鳥学会鳥類保護委員会副委員長)ほか
- コメント 「陸上生物、里山の観点から」  
野間直彦(滋賀県立大学)
- コメント 「生物多様性条約に基づく国の政策」  
国会議員(調整中)

参加費:500円(資料代)

主催/日本生態学会 自然保護専門委員会  
日本鳥学会 鳥類保護委員会  
日本ベントス学会 自然環境保全委員会

後援/日本鳥類学会 自然保護委員会  
(財)日本自然保護協会  
(財)世界自然保護基金(WWF)ジャパン  
バードライフ・インターナショナル  
ラムサール・ネットワーク日本

問い合わせ先:  
083-928-5496(安浜)  
099-285-8169(佐藤)  
080-2613-7968(中原:当日会場担当)  
e-mail: sato@sci.kagoshima-u.ac.jp

## 【北陸】

### ●映画「祝の島」みに・キネマ福井上映会

とき：9月2日（木）

ところ：テアトルサンク④（福井駅前アップルビル3階）

1回目の上映：10:30～ 監督トーク：15:30～

2回目の上映：16:30～

3回目の上映：19:00～

入場料前売り 1200 円、 当日 1500 円(高校生以下は 500 円)

問い合わせ：みに・キネマ・福井 電話：0776-24-5985（高橋）

## 【近畿】

### ●和歌の浦干潟観察会

日時：2010年9月5日（日）、10:00?12:00

観察予定地：観海閣（妹背山）周辺の干潟

チゴガニの求愛行動、コメツキガニの砂団子、水際に群がるヤドカリ類、テッポウエビ、ガザミ類の稚ガニ、クルマエビ類の稚エビ、絶滅寸前種のイボウミニナなど、たくさんの生き物を観察できます。今年は例年の観察会に加え、市民参加型の生物調査（助成：日本財団）も行います。生き物好きのあなた、是非ご参加を。

集合時間と場所：10時に観海閣（玉津島神社の向かい）

但し、雨天中止（小雨決行）

費用：レク保険一人20円（事前申し込み）、資料一部100円、どちらも希望者のみ

服装や準備物、その他注意点：長靴または泥にはまっても良い靴（サンダル・水雪駄は泥に足を取られるので不適）。帽子、タオル等、採集道具や飲食物、着替えは各自の判断で。レクレーション保険への加入を希望される方は、準備の都合上9月2日（木）までに、氏名・年齢・性別を溝口までご連絡ください（連絡先は下記参照）。

主催：和歌山大学教育学部生物学教室（代表：古賀庸憲）

わかのうらひがた楽部（担当：あかつちゆかこ）

保険加入希望者申込先：e-mail: [kazukomz@center.wakayama-u.ac.jp](mailto:kazukomz@center.wakayama-u.ac.jp)、または

073-457-7378, 生物学教室の溝口まで。

その他問い合わせ：e-mail: [tkoga@center.wakayama-u.ac.jp](mailto:tkoga@center.wakayama-u.ac.jp)、または090-4499-3157, 古賀まで

## 【中四国】

### ●9月4日 田名埠頭集会のお知らせ

昨年9月より始まった上関原発建設のための埋め立て工事への抗議も1年を迎えようとしています。この1年、埋め立て工事もまったく進んでいない中、中国電力は発覚した自身

のずさんな調査や島根原発の点検ミスに対し真摯に対応せず、また祝島島民をはじめとした多くの上関原発反対の声に対しては地元住民を裁判や損害賠償で訴えるという形で押しつぶそうとしてきました。祝島島民の会では昨年の田名埠頭から1年を迎えるに当たり、県内の上関原発に反対する方々とともに1周年の集会を田名埠頭で開催することにしました。

場所：山口県平生町 田名埠頭（[地図](#)←神花山のすぐそばです）

（詳しい場所はまだ未定ですが、当日は田名埠頭近辺にお越しく下さい）

日時：9月4日（土） 午後1時より

まだまだ暑い最中ではありますが、ぜひご参加いただき、生物多様性を残す瀬戸内の豊かな海とそこに生きる多くの命、そして私たち自身の命と生活を守ろうという声を一緒に上げていただければ幸いです

## ●「ミツバチの羽音と地球の回転」の自主上映会

↓↓昼の部↓↓

会場：[広島留学生会館](#)2階ホール（広島市南区西荒神町1番1号）

→JR広島駅すぐ近くです。（会場に駐車場はありませんのでご了承ください）

日時 9月5日（日）

10：30～午前の部 上映スタート

12：50～13：50 鎌仲監督のトークショー

14：00～午後の部 スタート

料金 前売り券1300円 当日券1500円 子供無料（中学生まで）

託児 午前の部のみ託児あります。（予約制）

主催：チームミツバチ

↓↓夜の部↓↓

日時 9月5日（日）

会場：[音楽喫茶 ヴルガン座](#)（広島市中区十日市町1丁目4-32 森本ビル） [map](#)

→広島のはぼ中心部。平和公園の近くです。

料金：1500円＋1オーダー（当日券のみ）＊約2時間の作品です。

ゲストトーク：鎌仲ひとみ／青原さとし（21:30～予定）

監督のトークショーは混雑が予想されます。当日、祝島のピワ茶を準備しています。マイカップ持参にご協力ください。

## 【九州】

### ●原発のお話「上関はいま」 講演会

とき：9月5日13:30～

ところ：大分市コンパルホール視聴覚室

講師：中山田さつきさん、高井公生さん、大原洋子さん（脱原発大分）

協力カンパ：500円

## 5. 事務局便り：

- この「うみひろも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。配信が迷惑と思われる方は事務局までご連絡ください。
- 企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。
- このメールマガジンは、毎月1日と16日の2回発行の予定ですが、都合によって遅延や中止もあります。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせください。また、パソコンを使えない環境の方には印刷体でもお届けします。その場合は、郵送料をご負担していただくことがあります。
- このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。海の生き物や守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひろも」のバックナンバーは、ホームページからダウンロードできます。
- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごいっしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。
- 本会への寄付をお寄せください。寄付も会費も同じ銀行口座「ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会」へお送りください。なお、送金される場合は、送金の内容について事務局にお知らせ下さい。

## 6. 編集後記

8月28日に茨城県平磯海岸で今年第3回目の観察会を行いました。猛暑日が続く中での開催に危惧する声もありました。当日は残酷なほどの快晴。でも海水は22.3度で、水に入ると冷たくて気持ちいい。暑さの中でしたが、参加者には満足していただけたようでした。ある参加者から、こんな良い企画なのに参加者が少ないのはもったいないですねという声が寄せられました。広報活動が十分でなかったことがその理由で、反省しています。今年は秋になって潮が引かなくなってしまったので、観察会は終了とします。講演会などは希望があれば開催するかもしれません。夏は終わりになったとはいえ、暑さは相変わらずです。9月に入ったとは思えないほど今年は異常な暑さです。みなさまはお元気で過ごしてしょうか。私はエアコンを使わないで過ごしていますので、少々バテ気味ですが、原発を作らせないために、なんとかエアコンを使わない生活を確立させたいと頑張っています。次回の「うみひろも」の配信は、9月中旬が多忙なため、10月1日の予定です。あしからず。(宏)

海の生き物を守るためになにかしたい！というあなたに！

## 会員募集中です！

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 円／年、団体 20,000 円／年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行うことができ、そのための助成金申請をすることができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して広く通知されます。入会希望の方は、事務局 [hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp](mailto:hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp)（向井）まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。



メールマガジン『うみひろも』第 65 号

2010 年 9 月 1 日発行

発行&編集人「海の生き物を守る会」

代表 向井 宏

〒606-8244 京都市左京区北白川東平井町 23-1

グリーンヒル北白川 23

TEL&FAX:075-703-7205; 090-8563-1501 メールアドレス：[hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp](mailto:hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp)

ホームページ URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

銀行口座：ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会